

最終報告書

報告者氏名：城間 知子 所属：沖縄県立那覇特別支援学校 記録日：2017年2月25日
 キーワード：コミュニケーション 重度重複障害 他機関との連携

【対象児の情報】

- ・学年 小学5年生 女児
- ・障害と困難の内容 複数回答可
 - ◎知的障がい
 - ◎重度重複障がい
 - ◎肢体不自由

身体の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・小学3年生より骨が折れやすいことから座位姿勢、側臥位、腹臥位を禁じられており、移乗も常に平行移動で行っている。 ・自分の意思で動かせる部分が限られている（右足膝、首、目） ・人や物の動きを注視することができる。
医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・胃ろうにより水分、栄養を摂取している。持続吸引をしている。 ・気管切開しているため、発声はない。
生活の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に隣接する施設に入所しており、ベッドの上でほとんどの時間を過ごしている。 ・月に数回家族が面会に来ている。検診等で他の病院を受診する際は母親と一緒にいく。

【活動目的】

- ・当初のねらい
 視覚、聴覚、触覚、前庭覚、その他の刺激を経験し、**どの刺激に安心し、どの刺激に緊張するのかを表情や体の動き等で伝え、やりとりすることができる。**
- ・実施期間 2016年5月～2017年2月
- ・実施者 城間 知子
- ・実施者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児の変化】

- ・対象児の事前の状況
 - コミュニケーションについて

定位反応	◎	近くにいる人をじっ見る。
探索反応	○	人の動き、シャボン玉の動きを目で追う。
快、不快	△	心地よい時に笑顔になる。不快な時には苦しい表情になる。
拒否	△	苦しい表情をする。笑顔との区別が難しい。
要求	—	
有意語	—	
注意喚起	—	
◎再現性有り、客観的な説明が可能 ○主観的にはOK、実態の共有には課題 △芽生え、不安定 —できない ?わからない		

快、不快について反応はあるものの、**どんな刺激、どんな時に反応するのか読み手側に伝わりにくい。**

【活動の具体的内容】

1 どんな刺激にどんな反応をするのかを探る。

① 過去の資料からこれまでの対象児のエピソードを書き出し、各感覚刺激別にまとめた。

感覚刺激	エピソード
聴覚刺激に対して	<ul style="list-style-type: none"> ・音に反応し、顔をしかめる様子が見られた。(就学前) ・頭を動かして音のする方向に向く。(就学前) ・音のする方向に向こうとして、顔を左右によく動かす(1年) ・名前を呼んだり、言葉かけや歌を歌ってあげたりすると笑顔を見せることがある(1年) ・耳の側でダイナミックに破いてあげると、ビリビリという音を楽しむ。(1年) ・名前をよばれると声のする方向に顔を向けて瞬きをする。(1年) ・ビー玉を転がす音や紙をちぎる音などニコッと笑って喜んでいた。(2年) ・近くで鳴子や鈴を鳴らすと音が大きいのか不快な表情をする。(4年) ・少し離れたところで楽器を演奏すると楽しいようで快の表情を見せる(4年)
視覚刺激に対して	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃを顔に近づけると顔をしかめる(就学前) ・光の明暗を感じ、人の姿や絵本を、顔を動かして追う。(1年) ・お雛様の絵人形を目で追ってみている。(1年) ・キラキラテープをじっと見つめる。(1年) ・イルミネーション等の光や玩具、カードの提示に対してじっと見たり左右に顔を向けて見るしぐさがある。(2年) ・iPadを見せると画面をじっと見つめ笑顔も見られた。(3年) ・近くのペットボトルがゆれる様子を笑顔で見る。(4年) ・優しい光の中、金魚が泳いでいる様子を注視し、楽しむ様子が見られた。(4年)
前庭感覚の刺激に対して	<ul style="list-style-type: none"> ・床におろしたり、姿勢を変換する度に、右足を上下、左右に曲げ伸ばし、興奮する様子が見られる。(2年) ・シーツブランコの揺れをにこにこ笑って楽しむことができた。(2年) ・ボールの上にマットを敷きその上に乗って、揺れを体験する遊びでは最初は驚いていたが、添い寝をして一緒に行くことで落ち着いて揺れを楽しむことができた。(4年)
触覚刺激に対して	<ul style="list-style-type: none"> ・感触遊びでは嫌な感触のときには顔をしかめる。(1年) ・両手を持って動かそうとすると嫌そうな顔をする(1年) ・右手の平の過敏がある(2年・3年・4年) ・口腔マッサージや顔ふきも大好きで抵抗なくさせてくれ、笑顔が多い。(2年) ・振動遊びをすると始めは驚いた様子でしたが、慣れてくるとニコニコ楽しんでいる様子が見られた。(3年) ・テントの中で風を送ると風があたったり、風船があたったりするので、瞬きが多くなり、驚いている様子だった(4年)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・周りに人がいることを好む(就学前) ・兄弟が多いからかにぎやかな雰囲気が好きである。(1年) ・担任がそばにいないと不安そうな表情をし、緊張も強かったが徐々に慣れてきた(2年)

過去の資料からこれまでのエピソードを書き出してみると、ビリビリの音を楽しむ、ニコニコ楽しんでいる、音に不快な表情をする等抽象的な記述で述べられており、どのような反応を楽しいと捉えたのか、どのような反応を不快と捉えたのかわかりにくいと感じた。また、音に反応ししかめっ面をする、口腔マッサー

ジや顔ふきも笑顔が多い等、刺激を提示 (A) しての反応 (B) の記述が多く、主観的な評価になっているように感じた。そこで刺激を提示する前後を知ることができれば、より確実に刺激に対する反応を知ることができ、笑顔やしなめっ面、不快な表情だけではない反応を探ることができるのではないかと思い、以下のように、動画記録 OAK 画像の検証を行った。

- ② 過去のエピソードから得られたそれぞれの刺激に対する反応を個別学習時に刺激前、刺激を与えたとき、中断した時の様子を動画記録にとり確認した。その上で安心していていると思われる反応と緊張していると思われる反応があることが分かった。

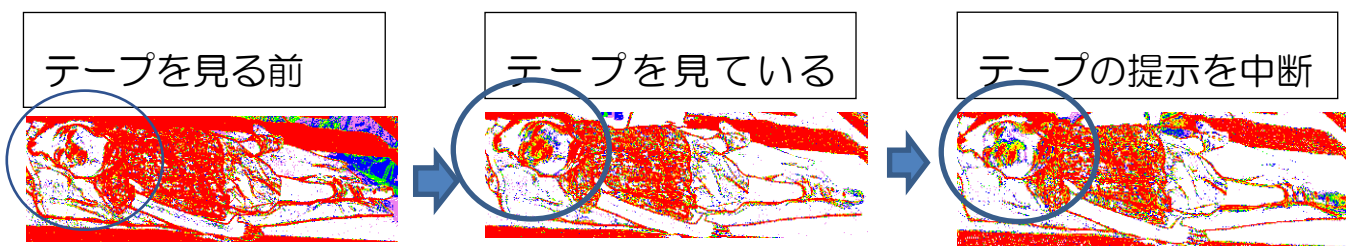
○安心していていると思われる反応

	内容	部位	刺激を伝える前 (反応)	刺激を伝達中	中断する
聴覚刺激	名前を呼ぶ	首	前方をむいている	左へ少し首を回旋する	前方へもどる
		視線	前方を見る。	視線を声のする方向へ向ける。	前方へもどる
右足		右足を少し動かす	足の動きが止まったあと 1 回だけ動かす。	足を動かす	
VOCA を聞く	首	前方をを向く	左側へ首を回旋させた後、元の位置へ戻すを繰り返す。	前方を見る。	
	視線	前方を見る。	視線を左に向けて VOCA を見たり、元に戻したりを繰り返す。	前方を見る。	
	右足	足はあまり動かさない。	足はあまり動かさない。	足はあまり動かさない。	
視覚刺激	キラキラテープを見せる	首	前方を向く。	左に少し首を回旋させる。	前方を向く。
		視線	前方をみる。	左に視線をむけキラキラテープを見て、右に視線を向けるを繰り返す。	左右の視線を動かした後前方を見る。
		表情	無表情である。	微笑む	無表情である。
		右足	右足は動かさない。	右足は動かさない。	右足は動かさない。

前庭感覚	トランポリンの揺れ (※トランポリンの上に硬いマットを敷いて、一部だけが揺れないように気を付けながら少しだけ揺らす。)	呼吸	呼吸が速い	呼吸がはやい	だんだん呼吸がゆっくりになる。
		首	前方を向く。	前方をむく。	左に首を回旋し、揺らしていた人のほうに動かす。
		視線	前方を見る。	上方へ視線を止める。	左側に視線を移し、揺らしていた人を見る。
		表情	口が開いた状態	口が開いた状態	微笑む
		右足	足は動かさない	足は動かさない	足は動かさない。

OAK のモーションヒストリーで動きの量を確認

○キラキラテープを提示



テープを見る前と見ている時では、顔の動きが増えている。テープを見ている時とテープの提示を中断した時では、顔の動きが減少している。

これは、テープを提示すると、左側にあるテープを見ようと顔を動かしているので、顔の動きが増加したのではないかと、また、提示を中断すると見ることも中断したことから顔の動きが減少したのではないかと考える。

「名前を呼んだり、VOCA を聞く、キラキラテープを見る」など、刺刺激の伝達中に、首をその刺激の方向へ向けたり、視線を刺激の方向に向けている。これは、**刺激を伝達する前後には見られない動作なので、刺激に対して注意を向けている**ことが分かる。トランポリンでは、中断した時に「微笑む」や「揺らしている人を見る」、「呼吸がゆっくりになる」などの変化が見られたことから**揺れが止まったことに気づいたことを伝えている**と考えた。

刺激に対して注意したり、気づいたりしていること、緊張していないことから、提示した刺激の方へ首を回旋したり、視線を向けたり、微笑む反応は**安心していると思われる反応**であると捉えた。

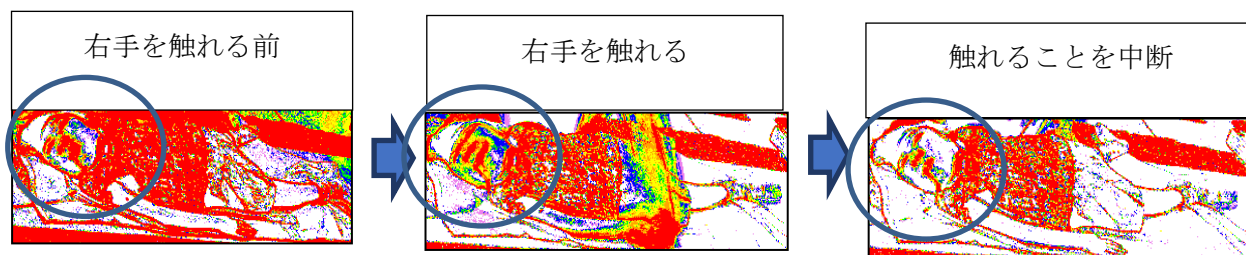


○緊張している反応

	内容	部位	刺激を伝える前	刺激を伝達中	中断している
聴覚刺激	耳元で新聞紙を破る	首 視線 表情 呼吸 右足	前方をむいている 教師の動きに視線を向ける 無表情である 一定速度の呼吸になる 足は動かさない	新聞紙の方向を向いた後、前方に向き直る 新聞紙に視線をむけた後、前方を見る 目を閉じ、口元を横に広げ顔全体に力が入る 力が入り呼吸が数秒止まる 足は動かさない	前方を向いている 前方を見る 顔の力が抜ける 一定速度での呼吸になる 足は動かさない
視覚刺激	おもちゃを急に近づける。	首 視線 表情 右足	前方を向いている 前方を見る 顔全体の力は緩んでいる 足は少し動く	前方を向き首の動きは変わらない。 視線を左に動かしておもちゃを見る。 目を閉じ、顔全体を緊張させる。 足は少し動く	前方を向き、首の動きは変わらない 前方を見る 眼を閉じ、顔全体を緊張させるの後、顔の力がゆるむ 足は少し動く
前庭感覚	車椅子から畳間への移乗	首 表情 呼吸 身体	前方を向いている 無表情である 一定速度で呼吸をする 身体はあまり動かさない	前方を向いてる 目を閉じ、顔全体を緊張させる 呼吸が速くなる 力が入った時に呼吸がとまる 身体全体が小刻みに動く	首を回旋させる だんだん緊張がゆるむ だんだん呼吸がゆっくりになる だんだん身体の動きが落ち着く
触覚刺激	右手のひらを触る	首 表情 身体 呼吸	前方をむく 無表情である 緊張が緩んだ状態 一定速度で呼吸をする	左側に首を回旋させたり、元に戻したりする 目を閉じ、口角をひろげ、顔全体を緊張させる 身体全体を緊張させる 呼吸が速くなる	前方を向く 顔全体の力がゆるむ 緊張が緩む 呼吸がゆっくりになる
その他	担任が教室からでる	首 視線 表情 右足 呼吸	左側に首を回旋させる 視線を左へむけ、止める 笑顔になる 右足先が動く 一定速度で呼吸をする	首の回旋が増える 左右に視線を動かす 無表情になる 右足先が動く 呼吸が速くなる	首を左に回旋する 左に視線を向け止める 笑顔になる 右足が動く 呼吸がゆっくりになる

OAK のモーションヒストリーで動きの量を確認

○右手に触れる



右手に触れる前と右手に触れている時とでは、顔の動きの量が増えていることがわかる。また、触れている時と中断した時では、中断している時の顔の動きが減っている。

これは、右手に触られたことで顔全体を緊張させているので、触れる前と比べると顔の動きが増加したのではないかと、また触れることを中断すると、緊張が緩んだことで、顔の動きが触れている時と比べ減少したのではないかと考える。

「新聞紙を破る、おもちゃを急に近づける、移乗、右手に触れる、担任が教室から出る」では、刺激を伝達中に刺激を伝える前後では見られなかった「顔全体を緊張させる、呼吸が速くなるまたは止まる、身体が小刻みに動くや首の回旋が多くなる」等の反応が見られたこれらの反応は緊張している反応と捉えた。

○動画、OAK 画像から以下のことが見えてきた。

	安心していると思われる	緊張している時
刺激	名前を呼ばれる キラキラテープを見る 担任がそばにいる トランポリンの揺れ ※揺れの大きさ、 身体の固定に注意が必要	おもちゃが急に目の前に現れる 車いすの移乗 右手に触れられる 担任が教室から出る 耳元で新聞紙を破る音を聞く
反応	ほほえむ 左側の刺激に対して、左へ首を回旋する。 視線を左へ向ける 視線がとまる	顔全体を緊張させる 首の回旋、視線を左右に動かすことが増える 身体全体が小刻みに動く 呼吸が速くなるまたは、力が入るため呼吸が数秒止まる

安心していると思われる時、緊張していると思われる時の反応を抽出することができたことから、今回提示した刺激以外にも以下のように提示方法に注意すること、刺激を伝達する前後をしっかりと観察し、反応を捉えることで、A 児のコミュニケーションが広がると考える。

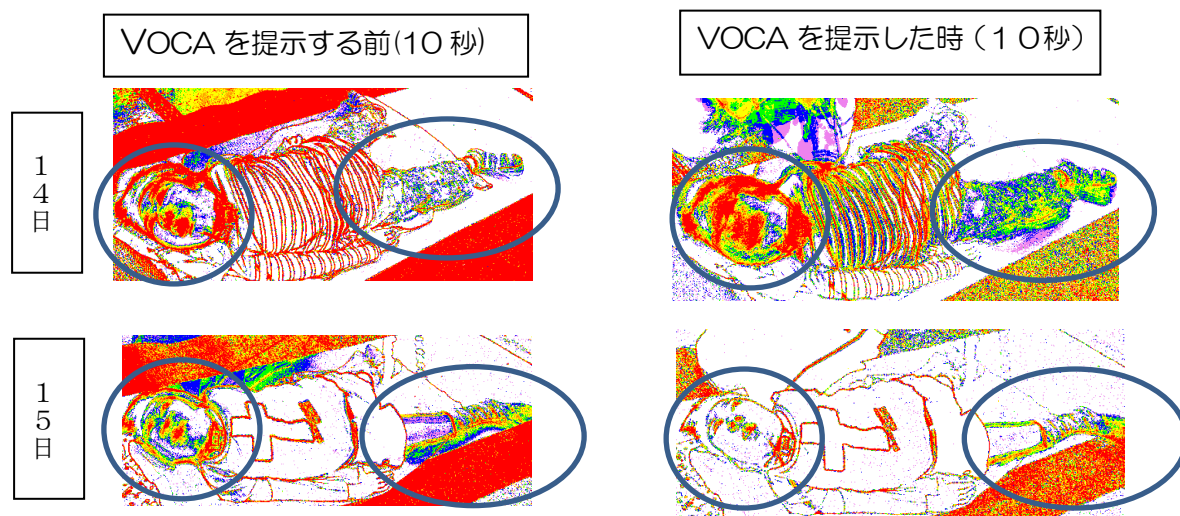
種類	提示する方法
視覚刺激	提示するものを左側から約 40cm 離して、ゆっくり近づける。緊張している時の反応が出た場合は、提示を中断するか、提示するものを遠ざけて見せる。
聴覚刺激	30cm 程度離し、小さな音量からだんだん大きくする等、音量に注意して提示する。刺激を提示

	する前後を観察し、緊張している時の反応が出た場合提示することを中断する。
前庭感覚	揺らす前に言葉かけを行い、揺れの大きさに注意し、小さな揺れから始める。また身体の一部だけが揺れていないか確認する。さらに、揺れの前後を確認し、緊張している時の反応が出た場合は揺れを止めるようにする。
触覚刺激	触れる前に言葉かけを行い、触れる前後の観察を行い、緊張している時の反応が出た場合、触れるのを中断する。
その他	A 児のそばから離れる時は、言葉かけを行う。

2 やってみたい、やりたくないを伝えることができる。

安心していると思われる時、緊張している時の反応を抽出することができたので、安心していると思われる反応、緊張している反応がコミュニケーションをとる手がかりになると考え、実際にこれらの反応を活用して、コミュニケーションをとろうと試みた。

1 か月前に笑顔を見せていた VOCA(ウクレレ+歌)の音声提示をおこなった。以下に反応の違いを示す。



14日は緊張した時の反応になった。15日は左側（VOCA）に視線をむけ動きが止まっている反応となった。上記 OAK の画像より、好きと思われていた刺激に対して、「14日はこの歌は聞きたくない」を伝えることができたと考える。A 児の緊張した時の反応、安心していると思われる時の反応を活用して、「昨日はやりたくなかったけど、今日はやりたい」等、その時その時のコミュニケーションがとれるようになってきたと考える。

今までは、好きなものを探そうとしていたが、好きだと思っていたものも今回の研究で、対象児はその日の体調や興味でやってみたい、やりたくないが変わることがわかった。好きだと思わずとやるのではなく、その日の対象児の刺激に対する反応を、刺激を伝える前、伝えている時、中断している時と細かく観察することが大事であることがわかった。

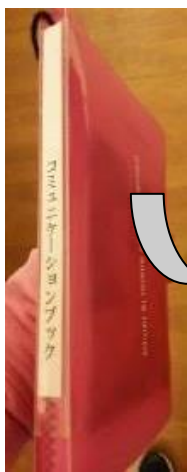


好きなものが常にやりたいというわけではないことを発見できたことは大きな成果だと考えるが、一人がそれに気づいても、関わる他の人がやりたいやりたくないに気づいていなければ、対象児のコミュニケーションの芽を摘んでしまうことになるのかもしれないと考えた。そこで、この発見を多くの人にしてもらう方法を検討した。

3 保護者、隣接する職員との連携

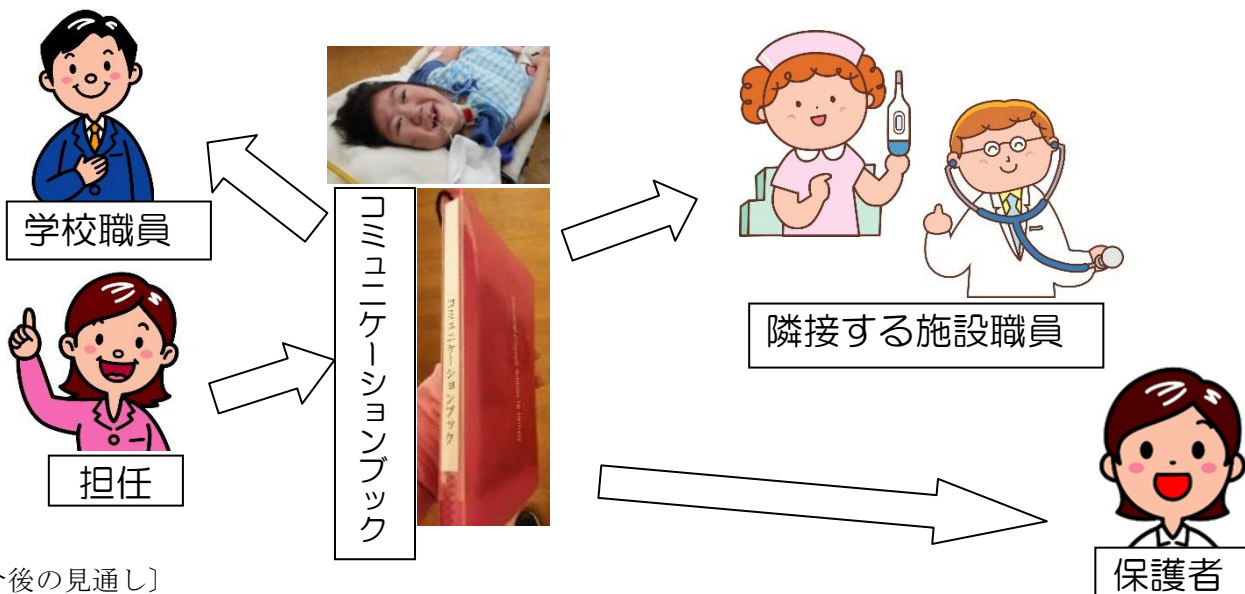
緊張している時の反応、安心している時の反応を写真にコメントを添えてファイルにまとめ、コミュニケーションブックを作成した。そして、コミュニケーションブックを常に車椅子やベッドサイドにかけるようにし、隣接する施設職員や保護者等 A 児と関わる人すべてが見ることができるようにした。「初めて A 児と関わる人に

もわかりやすく参考になる」「A 児のこと初めて知ったこともある」等の感想があった。安心してしている時の反応にあるもの（VOCA）を A 児の部屋にも置くと「緊張している時に VOCA を鳴らすと落ち着いた」等の言葉が聞かれた。忙しい中でも気軽にできるものであれば、実践してもらい A 児の施設の中での生活の幅が広がるのではないかと考える。

○コミュニケーションブック

	<p>安心してと思われる</p>  <p>見てみたい、きいてみたい時、左側から提示すると、視線を向けようとしたり、視線を止めてじっと見たりするよ。 口元を上を少しあげて、微笑んだりするよ。</p>	<p>緊張しちゃう</p>  <p>ちょっと嫌だな苦しいなと思うときは、顔全体を緊張させてしまうの。 そして、ドキドキして、呼吸がはやくなってしまうの。 時々泣いちゃう。</p>
---	--	--

そして、コミュニケーションブックを常に車椅子やベッドサイドにかけるようにし、隣接する施設職員や保護者等 A 児と関わるすべての人が見るようにした。上記の感想より忙しい中でも気軽にできるものであれば、実践してもらい A 児の施設の中での生活の幅が広がるのではないかと考える。



〔今後の見通し〕

緊張と安心の反応は抽出できたので、今後はこの気づきを活用し、コミュニケーションを深めていきたい。また A 児と関わる人と共有し、A 児のやりたくない、やりたい（やってみたい）を多くの人気がづけるように進めていく必要がある。そのためには、コミュニケーションブックだと、開かなければ見ないという課題があり、現在一枚のシートで安心と緊張がわかるシートを作成中である。